

東北大学 全学教育貢献賞



これまでの全学教育貢献賞受賞者リスト

全学教育貢献賞受賞者一覧

TOHOKU
UNIVERSITY

回	年度	氏名		受賞理由	備考
第1回	平成15年度 <2003> (H16. 3. 22)	1	水原 克敏 教育学研究科・教授	受講生参加型総合科目の「自分」において優れた授業を実践した。	総長教育賞受賞
		2	生出 恭治 情報科学研究科・教授	全学教育実施体制の確立、新カリキュラムの策定と実施に貢献した。	
		3	横林 洋子 大学教育研究センター・講師	長年にわたり全学教育の化学実験を担当するとともに、理科実験全般の管理運営に貢献した。	
第2回	平成16年度 <2004> (H17. 3. 28)	1	融合型理科実験に向けてのワーキンググループ（委員長：須藤彰三教授） （理、工、農、生命、大教セの28名）	2年あまりの期間にわたり企画立案作業を行い、自然科学総合実験を円滑にスタートさせたこと、及びそのもとに組織された「テーマ開発」「出席、成績管理システムの開発」を担当したメンバーとによる教育プロジェクトを完成させたこと。	総長教育賞受賞
第3回	平成17年度 <2005> (H18. 3. 27)	1	邑本 俊亮 情報科学研究科・助教授	基幹科目75科目の中で、学生による授業評価は突出しており、並々ならぬ教育的熱意が学生の学習意欲を培い、学習成果の面で多大な効果を上げ、全学教育担当教員の模範となる功績を残している。	総長教育賞受賞
		2	勝山 稔 国際文化研究科・助教授	理系学生が人文科学研究の基礎から実践までを、網羅的にかつ「やりがい」を感じながら体験できる高いレベルの自主学習型の講義を実践した。	
		3	尾畑 伸明 情報科学研究科・教授	数学科目は、全部で12種類の科目があり、前後期合わせて延べ103コマの講義が開講され、全学教育数学においては「難しい」、「分かりにくい」という意見が一般的である中で、高い評価は傑出したものであり、さらに、授業方法、板書、レポートなどについても多くの支持を受けている。	
		4	白井 淳平 理学研究科・助教授	物理学は難しくて分かりにくいという学生が多い中、学生による授業評価の複数回答により、教員の授業に対する取り組みの熱意を感じ、勉学の意欲を亢進し、物理学に対する理解が促進されたものと期待される。	
		5	土佐 誠 理学研究科・教授	人文社会科学系の学生164名を対象として天文学を中心とする宇宙地球科学概論を講義し、アニメーションやシミュレーション、ビデオでの映像を駆使して、専門外の学生の興味を誘う授業に努めた。また、その季節に話題になっている天文現象の説明を行うなど、興味ある話題を積極的に取入れている。	
第4回	平成18年度 <2006> (H19. 3. 5)	1	今井 秀雄 情報科学研究科・助教授	1 優れた授業実践 2 全学教育科目の中でも難解といわれる「数学」の授業において、数学者の専門用語ではなく日常の言葉を用いて講義を行う等の工夫を積み重ね、高度な内容でかつ学生にわかりやすい授業を実践し、極めて高い学生の授業評価を得た。	総長教育賞受賞

回	年度	氏名		受賞理由	備考	
第5回	平成19年度 <2007> (H20. 3. 3)	1	張山 昌論 情報科学研究科・准教授	顕著に高い授業評価を維持しており、個性がでにくい、しかも過渡期の難しい全学教育情報教育を、楽しく、しかし教材の本質を見失わずに、情報科学・情報技術に対する知的好奇心を刺激する授業を行ってきた。	総長教育賞受賞	
		2	石川 洋 理学研究科・助教授	「物理学D」の教科設計、教材作成および授業実施の統括を平成16年度から担当している。当該科目はアンケート等では学生に好評であり、熱心に取り組む者が多く、1セメの段階で落ちこぼれる学生が減少した。また、この講義の実施によって高大接続及び補習授業に関する多くの基礎資料が得られた。		
第6回	平成20年度 <2008> (H21. 1. 5)	1	佐藤 明 医学系研究科・准教授	健康で健全な心身を養うという体育教育本来の目的を果たすのみならず、科学的論理的思考に基づいた技術指導と弓道の背景にある日本の伝統文化の解説を通じて科学と文化の融合を目指した授業を長年展開している。学生による授業評価では、保健体育科目担当教員のうちもっとも高い評価を得ている。	総長教育賞受賞	
		2	”文科系のための自然科学総合実験”開講を目指すワーキンググループ (委員長：須藤彰三教授) 全21名		当該ワーキンググループは平成17年度特色GP採択を契機として組織され、2年間の議論の後、開講理由、目的、テーマの設定、実験課題の製作を行い、平成19年度1セメスターに「文科系のための自然科学総合実験」を開講した。「学生の授業評価」は他の教科に比べて、驚くほど突出して高い。メディアも強い興味を示し、河北新報、毎日新聞、読売新聞等にその概要が掲載された。	
		3	宇野 忍 教育学研究科・教授	平成14年度以降、全学教育審議会の評価委員会委員長、学務審議会の評価改善委員会委員長として、現在実施されている授業評価アンケートとその活用システムの礎を築くなど、長きにわたり全学教育の評価改善業務に携わり、全学教育の質の向上及び授業担当教員の学習成果検証への意識を高めることに寄与した。		
第7回	平成21年度 <2009> (H22. 1. 4)	1	学務審議会外国語委員会 スペイン語教科部会	学務審議会外国語委員会スペイン語教科部会は、コミュニケーション・アプローチを実践するために、CALLのデジタル技術を多角的に取り入れ、高い学習効果を上げている。それら工夫により、年々受講者数を増やし、初修外国語の中でもドイツ語、中国語に次いで受講者数が多く、学生による授業評価アンケートにおいて外国語教育の中で非常に高い評価を得ている。	総長教育賞受賞	
第8回	平成22年度 <2010> (H23. 1. 5)	1	清水 悟 理学研究科・准教授	数学は、概念の理解と計算能力の訓練が同時に要求され、修得に時間と労力が必要とされる科目であり、よい数学の授業を行うには、単に教科内容を正確に伝えたいという情熱だけではなく、いかに伝えるかという技術の鍛錬が要求される。学生が理解しやすいように要点を明快に語る分かりやすい講義を心がけ、さらに、毎回演習問題を解かせ、理解を定着させる工夫をするなど、学生にとって面白い授業を実践している。	総長教育賞受賞	
		2	玉川 明朗 医学系研究科・准教授	バトミントンを教材として、単に技術を高める指導を行うだけではなく、運動生理学に基づく身体運動の原理をわかりやすく学生に理解させる工夫をこらした授業を長年続けている。心拍モニターや加速度センサーによりエネルギー消費を推定するだけではなく、日常の行動の評価と比較で、運動によるエネルギー消費と食事量のバランスを考えさせ、自らのデータに基づいて健康的な生活習慣を考えさせる工夫を行っている。		

回	年度	氏名		受賞理由	備考
第9回	平成23年度 <2011> (H24. 1. 5)	1	勝山 稔 国際文化研究科・准教授	基幹科目の「文学の世界」で、学生の内発的な動機付けを重視した授業実践の工夫を取り入れて教育の効果を上げ、授業評価においても非常に高い評価を得ており、こうした姿勢で平成10年度より複数の全学教育科目を継続的に担当している。	総長教育賞受賞
		2	阿部 恒之 文学研究科・教授	受講者数が多い「心理学」の科目でありながら、社会科学科目の中でも学生の授業に対する満足度、理解度が高く、授業評価においても非常に高い評価を得ている。	
		3	樋口 博信 医学系研究科・准教授	長きにわたって、本学の保健体育（実技）の授業を担当し、特に、質の高いテニスの授業を展開し、学生の授業評価の満足度も非常に高い評価を得ている。	
第10回	平成24年度 <2012> (H25. 1. 7)	1	芳賀 満 高等教育開発推進センター・教授	主として国際学士コースプログラムの授業を担当し、卓越した語学力を駆使して、異なる文化・言語環境を視野に入れた優れた授業実践を行っている。教育以外にも、国際シンポジウム等の開催責任者となって、様々な研究交流や教育実践交流の促進を行い、広く全学教育を発展させる取り組みを進めている。また、グローバル化進展の中で、これらの国際的な教育活動や研究業績は、本学の教育活動の活性化に大いに寄与している。	総長教育賞受賞
		2	小泉 政利 松崎 丈 文学研究科・准教授 宮城教育大学・准教授	手話を学ぶことを通して、障害をもつ人々への共感と理解を深めるといふ、社会的にも大きな意義のあるテーマを取り上げ、継続的に取り組んでいる。手話の基本技術の指導とともに、手話や聴覚障害について学際的見地から学ぶという授業実践を行い、学生からも一貫して非常に高い評価を得ている。	
第11回	平成25年度 <2013> (H26. 1. 8)	1	浅川 照夫 高等教育開発推進センター・教授	長きにわたって、本学の英語教育をはじめ初修外国語を含めた外国語全体の教育の実施と運営に尽力されてきた。また、数多くの委員会の重要メンバーとして、多面的に全学教育の発展に貢献している。グローバル化進展の中で、高度なコミュニケーション能力を備えた人材の育成を推進し、全学的視野に立った外国語教育の発展に寄与している。	総長教育賞受賞
		2	末松 和子 国際交流センター・教授	留学生との共修による基礎ゼミを担当し、異文化間コミュニケーションを通して、グローバルで柔軟な考察力を身につけるといふ教育活動を継続し、大きな成果を上げた。また、学生からも一貫して非常に高い評価を得ている。	
		3	中村 健二 工学研究科・准教授	「情報基礎」を担当され、多人数授業でのスキル習得という難しい科目内容にもかかわらず、Web利用による新しい教育手法を実践し、顕著な成果を上げており、大多数の学生からも授業に対する満足度、理解度が非常に高く、全学教育に貢献している。	
		4	藤本 敏彦 高等教育開発推進センター・准教授	外国人留学生向けに、日本文化としての武道を教材として取り入れる等、体育実技教育に創意あふれるユニークな教育を実践され、留学生だけでなく、日本人学生からも高い評価を受けた。また、「基礎ゼミ」や「生命と自然」等多くの全学教育科目を担当し、継続して優れた授業を実践している。	

回	年度	氏名		受賞理由	備考
第12回	平成26年度 <2014> (H27. 1. 7)	1	正宗 淳 情報科学研究科・准教授	授業において、数学ソフトウェアのシステムを利用し、また、英語による板書により、創意工夫のある独創的な教育方法を実践し、顕著な成果を上げた。学生からも一貫して非常に高い評価を得ており、全学教育に貢献していると評価された。	
		2	米澤 誠 附属図書館・事務部長	ラーニング・コモンズに関する理論と実践の我が国における第一人者として、学びを多角的に支えるハード・ソフト環境の設計と整備を先導した。この環境は学生の学びへの意欲と共鳴し、附属図書館は学生で溢れるにぎやかで知的な場として、南北川内キャンパスの中で特別な空間となっている。この新しい附属図書館は全学教育の受講学生に有形無形の恩恵をもたらしており、全学教育に貢献していると評価された。	
		3	ダニエル・アイコースト 高度教養教育・学生支援機構・講師 ベン・シャロン 高度教養教育・学生支援機構・講師	長年にわたり「多読法」を基礎とした英語授業を行い、失敗を重ねつつも成果を上げてきた。「多読法」に多彩なアイデアを組み合わせることにより、学生に自律的な多読を促し、現在では、図書館と連携するまでに発展した。また学外に向けてもその成果を広く紹介し、全学教育に貢献していると評価された。	総長教育賞受賞
		4	田中 幹人 学際科学フロンティア研究所・助教	問題解決型の授業実践により、かねてより学生からの評価が非常に高く、基礎ゼミFDにおいて実践事例の報告をするなど、全学教育に対する積極性が見て取れる。また、受講学生が基礎ゼミ成果発表会へ自主参加し、主体性を育む授業として成功をおさめ、全学教育に貢献していると評価された。	
第13回	平成27年度 <2015> (H28. 1. 6)	1	関内 隆 高度教養教育・学生支援機構・教授	現在の全学教育科目の中心となる基幹科目、基礎ゼミなどの企画と制度設計に当初から携わり、現在に至るまでの長年の間、全学教育の基盤整備に寄与された。また、教務委員長としても、全学教育全体の企画・運営に関する根幹部分で教育の発展に貢献しており、全学教育に貢献していると評価された。	総長教育賞受賞
		2	足立 佳菜 鈴木 学 高度教養教育・学生支援機構・助手	学部1・2年生の学びを支援するプロジェクト(SLAサポート)に当初から中心的に携わり、学習支援に対して実績を伴う多大な成果を上げている。また、多彩の支援活動の展開、SLAスタッフ育成にも力を注ぎ、学習支援の基盤構築に努めたその功績から、全学教育に貢献していると評価された。	
		3	土浦 宏紀 工学研究科・准教授	物理学Aにおいて、高校物理からの接続を意識した授業を展開し、さらに授業の中では豊富な具体例や十分な復習を含めて、創意工夫のある教育方法を実践し、顕著な成果を上げている。学生からも一貫して非常に高い評価を得ており、全学教育に貢献していると評価された。	
		4	杉浦 謙介 国際文化研究科・教授	ドイツ語教育で高く評価される授業を実施しているだけでなく、全学教育の外国語教育に不可欠なCALLシステム構築に多大な貢献をした。また、全国的なeラーニング教育の発展に大きく寄与するなど、本学の教育力の高さを示す活動を行っており、全学的視野に立った外国語教育の発展に寄与していることから、全学教育に貢献していると評価された。	総長教育賞受賞

回	年度	氏名		受賞理由	備考
第14回	平成28年度 <2016> (H29. 1. 5)	1	坂井 信之 文学研究科・准教授	心理学の授業において、工夫を凝らした授業を行い、大人数授業にも関わらず学生の関心を引きつけ、一貫して高い評価を得られていました。さらに年々評価を上げており、工夫を惜しまないその積極性が評価されました。基礎ゼミでもユニークな授業展開が新聞に取り上げられるなど、顕著な成果を上げており、全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	
		2	ライアン ス プリング 高度教養教育・学生支援機 構・講師	学生からの高い評価のみならず、ノースカロライナ大学との新しい英語教育プログラムの開発・実施、プロジェクト型学習を取り入れた授業展開、留学生との合同クラスの実施など、様々な先進的な取組を行い、全学教育の外国語教育に多大な貢献をしたことから、全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	総長教育賞受賞
		3	三宅 禎子 非常勤講師 (岩手県立大学教授)	本学の課題となっている関連学習時間の確保と高い授業評価を両立し、スペイン語授業において、母語話者TAを活用した教員中心とは異なる学生の能動的学習空間を実現しておられました。また、海外派遣の指導にもあたり、多くの学生をスペイン語圏への留学に送り出した実績から、全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	
		4	小野 康直 非常勤講師	教職課程の総まとめの科目「教職実践演習」の企画・制度設計など、立ち上げから3年以上にわたり基盤整備に尽力されたこと、長年の高校教員等の経験を生かし、学生に多様な視点から教育を考える機会を提供したこと、受講者は教育職員免許状取得を目指す学生に限られるが、社会で活躍できる人材を育成するうえで、大きく寄与する授業に貢献したことから、特別賞受賞となりました。	特別賞受賞
第15回	平成29年度 <2017> (H30. 1. 5)	1	野村 啓介 国際文化研究科・准教授	受講生の知的好奇心を刺激するテーマを精選して教育内容を構成し、優れた授業を実践している点が高く評価されました。また、受講学生との対話を反映した講義内容をまとめたものを出版していることも、本学の全学教育の社会的地位を高めるのに寄与していると認められることなど、顕著な成果を上げており、全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	
		2	渡辺 正夫 生命科学研究科・教授	学生の観察・レポートという主体的活動を同候補がwebを介してコメント・励ましなどを行うという双方向型の新規な授業形態を構築した点は高く評価されました。各自の野菜栽培を通じた観察力・文章力養成を目標としたwebベースの双方向の完全公開型授業は他教員も参考としたい授業形態です。また、学生による授業評価も極めて高いことも評価されているなど、全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	総長教育賞受賞
		3	カヴァナ・バ リー 高度教養教育・学生支援機 構・講師	空手を題材として日本文化を考える国際共修授業は大変興味深く、外国人留学生には日本文化紹介の機会となり、日本人学生には英語4技能を実践的に修得する機会を提供しています。さらに同候補は、英語でレポートや論文を書く基盤を作ることを目的に、1年次および2年次の学生向けの“academic writing”授業を独自に開発していることが評価されました。この取り組みは、全学教育と専門教育の橋渡しの取組みとして高く評価できることから、全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	

回	年度	氏名		受賞理由	備考
第16回	平成30年度 <2018> (H31. 1. 7)	1	永吉 希久子 文学研究科・准教授	明確な授業目的の基に、精選されたテーマと優れた授業設計・実践によるアクティブラーニング形式の授業を展開し、授業評価が非常に高い点が評価されました。過去に開講された同授業の授業評価で低かった項目については、平成29年度の授業評価では解消されており、授業改善に向けた努力が読み取れ、全学教育の授業への誠実な姿勢とともに、全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	
		2	セシリア ノ エミ シルバ 高度教養教育・学生支援機 構・准教授	卓越したスペイン語教育を長年にわたり実践したほか、短期留学と組み合わせた語学教育、スペイン語標準試験の本学での実施の導入、スペイン語教師の指導力研鑽の取組み等多岐にわたる貢献により本学のスペイン語教育の充実・発展に大きく寄与している点が高く評価されました。東北大学学生のスペイン語学習への意欲を高めることに多大な貢献をしたことから、全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	
第17回	令和元年度 <2019> (R2. 1. 7)	1	篠原 歩 情報科学研究科・教授	本学初となる初学者向けの機械学習の本格的な授業を開講し、機械学習という現代的で難解な技術を、無理なく学べるようにコース設計し、分りやすい理論と演習の組み合わせで、優れた授業実践により受講生から高く評価されました。本学の方針であるAI・数理・データサイエンス教育の模範となるもので、全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	総長教育賞受賞
第18回	令和2年度 <2020> (R3. 3. 16)	1	『展開科目 総合科学群 カレントトピックス科目』 大学生のレポート作成入門：図書館を活用したスタディスキル	平成16年度から積み重ねてきた授業運営技術と新しい企画を駆使して学生の満足度が高く優れた授業として成立させており、アカデミックスキルの実践教育として全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	
		2	新型コロナウイルス感染症対策 遠隔授業ワーキンググループ	コロナ禍において、教育活動を継続させる方策を検討して実現させるという使命を帯び、卓越した技術力と緻密な作業計画と献身的な努力により、短期間での整備を実現しました。ワーキンググループの活躍により、全学教育のみならず、学部、大学院など本学の教育全般が恩恵を受けたことに加えて、今後の教育方法の在り方について新しい方向性と可能性を大学全体に気づかせてくれた功績から、全学教育貢献賞に相応しいと評価されました。	総長教育賞受賞
第19回	令和3年度 <2021> (R4. 1. 5)	1	猪奥 倫左 理学研究科・准教授	コロナ禍において、デジタルネイティブ世代の行動様式に配慮した学びの形態を徹底して追求した結果、極めて高い授業評価を達成されました。創意工夫溢れる授業動画と独自のアンケート導入により、きめの細かいオンライン授業を進めた取り組みが高く評価され、全学教育貢献賞に相応しいと判断されました。	
		2	岡田 毅 高度教養教育・学生支援機 構・特任教授（研究）	平成30年度から続けられてきた英語カリキュラム改革において、長年の教育研究活動に基づき、確固たる理念のもと、一般学術英語としての体系的なカリキュラム確立にご尽力されてきました。英語改革の方向性を策定する際の理論的支柱であっただけでなく、それを実現する実務的推進力の中心として活躍されてきた業績と貢献が高く評価され、全学教育貢献賞に相応しいと判断されました。	総長教育賞受賞